

# 学校草刈り 地元企業が加勢

## 長岡第五小 機材・人手を3社協力

企業の力を借りて、気持ちよく過ごせる学校づくりを。長岡京市下海印寺の長岡第五小で、保護者や地域住民らに加え、民間企業が初めて参加しての除草作業が行われた。背景には高齢化や農地の減少に伴う機材不足があり、企業から社員の参加のほか、軽トラックや草刈り機などの無償貸与を受け、学校環境を整備した。保護者や地域住民らは「今後も継続して取り組めたら」と期待する。

同小ではPTAに当たる「育友会」や、地域住民らでつくる「長岡第五小学校区地域コミュニティ協議会」のメンバーが例年、子どもの学習環境の向上や教員の負担軽減のため、夏休み中に伸びた校内の雑草を8月下旬〜9月上旬に刈り取ってきた。一方、近年は地域の高齢化が進み、農地が減る中で、農機具などを今後も確保でき

るかが課題だった。そこで長岡京市に相談したところ、市と包括連携協定を結ぶ自動車販売会社「京都ダイハツ販売」や製菓会社「大塚製菓」、市内に本社を置くポンプや園芸機器メーカー「工進」から協力を得られることになった。軽トラック2台や草刈り機などを借りた。京都ダイハツ販売の一部社員に協力して



地域住民とともに草刈りに取り組む京都ダイハツ販売の従業員ら(長岡京市下海印寺・長岡第五小)

## 高齢化・農地減少背景「今後も継続を」

もらい、児童も加わって、総勢約160人が参加した。

参加者は背丈ほどの高さに伸びた雑草を草刈り機で刈ったり、下草を抜いたりして軽トラックの荷台に積み、2時間ほど作業した。同小3年榎田悠乃さん(8)は「学校がきれいになってうれしい」と笑顔を見せ、京都ダイハツ販売の岡地智之さん(45)は「地域に根ざした取り組みができてよかった。また声をかけてもらえるなら協力したい」とうなずいた。育友会の藤井俊会長(39)は「企業の力をお借りし、地域課題の解決のため取り組むことができた。今後も継続し、発展させていければ」と話していた。(山田修裕)



企業から無償貸与された草刈り機を使って除草作業を行う地域住民ら

